

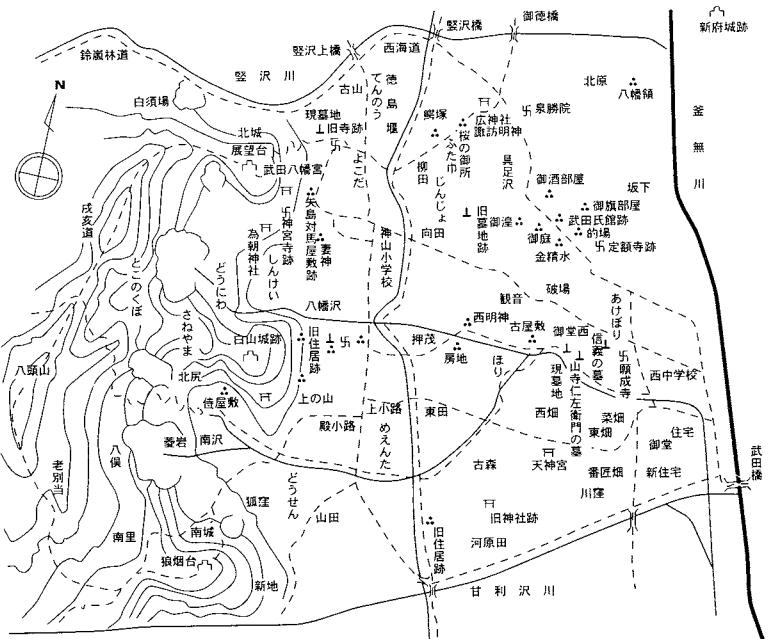
中・近世村落景観復元への一試論 —甲州武川筋武田村の地名と地割りの検討—

佐崎市教育委員会 関間 俊明

1. はじめに

地名や地割りでどこまで歴史的な景観を復元できるのか。これまでに多くの研究がなされ、一定の成果を挙げてきたといえよう⁽¹⁾。今回取り扱う武田村は山梨県韮崎市に所在する。釜無川の右岸にあり、当地には武田信義館跡が存在するという伝承もある。また、その周辺には白山城跡や武田八幡宮をはじめとする史跡も数多く所在している。白山城に関しては、平成9から10年度にかけて学術調査が行われた。その中で、筆者は白山城下の北宮地と鍋山の地名と地割りの検討を行い、寛文4年時の地名の示す地の推定を行った（閑間・秋山1999、以下旧稿とする）⁽²⁾。旧稿の検討により北宮地と武田の境界周辺に地蔵屋敷・家の前・屋敷うら・屋敷の内・かくえん屋敷など屋敷に関連する地名が、詳細な地点は不明なものまとまりをもって存在していることを指摘しておいた。

また、韮崎市立神山公民館が伝承とともに作製した「神山町付近の名所・旧蹟分布図」にも、武田村に的場御旗部屋・御酒部屋などの地名が記され、当地が特別な地として扱われていることがわかる（第1図）。しかしながら旧稿では武田村の地名・地割り等については、検討を加えることができなかった。そこで本稿において旧稿の補足も兼ねて、武田村について検討していくこととする。



第1図 神山町付近の名所・旧蹟分布図(垂崎市立神山公民館1993を再トレース)

2. 武田村の地名

ここでは旧稿の手法を踏襲して、寛文4年の『甲州武川筋武田村御検地水帳』の地名と現在の小字名および聞き取りにより得られた地名などを参考にして寛文4年時の地名の指す場所を推定していく⁽³⁾。

①現在の武田の地名（第2図）

まず、寛文四年の検地帳を検討する前に、現在の武田の小字名について触れておきたい。現在、武田には「西海戸」・「林崎」・「道北」・「南反保」・「新田」・「上北原」・「下北原」・「東畠」・「立沢」・「坂下」以上10の小字名がある。これらの区分は以下に示すものを境界としているようである。

西海戸：「武田」の最西端の地域であり、比較的緩やかな傾斜地であり一部に平坦部も見受けられる。豊沢を挟んで反対側には水上の集落が存在する。東側は「北宮地」の「古山」と接する。東側は徳島堰を境にして「林崎」と接している。

林崎：「西海戸」の東側で徳島堰より下方に位置する。「西海戸」とは明瞭な段差があるが、これは徳島堰

の造営に関連するものと考えられ、本来「西海戸」との傾斜はそのまま続いているものと考えられる。「新田」との境界は旭バイパスによるものである。また、北東隅には諏訪神社が所在する。

道 北：豎沢と「林崎」の間に位置する。その名前のとおり「林崎」と「道北」との間を通る道の北側に位置し、その名の由来をうかがい知ることができる。

南反保：北宮地村に接する比較的広い範囲である。「林崎」・「新田」・「東畠」と接しており、その境界は具足沢によるものである。

新 田：「林崎」の下方で旭バイパスを境界としている。「林崎」と「道北」の境界となる道の延長が北側に走り、その道沿いに屋敷地が存在する。

上北原：「新田」と道を挟んで北側の地域である。一部に川原が含まれておりその境には道が走る。泉勝院を取り囲むように屋敷地が存在する。

下北原：名前のとおり「上北原」よりも下流の地域を示している。やはり新道に面して屋敷地が所在する。なお、この部分の道は最も新しく作られた道であることから、この道沿いの屋敷地も新しいものといえる。

東 畠：「下北原」・「新田」・「東畠」・「坂下」に囲まれた地域である。「新田」・「上北原」・「下北原」に存在する屋敷地とは別の屋敷地のまとまりが認められる。

立 沢：豎沢が釜無川に流れ込む河口付近の川原部分である。

坂 下：釜無川の川原である。「坂下」・「立沢」以外の地域はこれらの地域よりも段丘面が一段高い。

以上のように現在の小字の境界は、自然地形的なものと人工的な構造物との2種類により境界が決められているようである⁽⁴⁾。

②検地水帳（寛文4年）に見る武田の地名（第2図・第2～4表）

武田には寛文4年8月1日から2日にかけて検地が行なわれている。その結果が『甲州武川筋武田村御検地水帳』に記載されている（第2～4表）。その中には地名として「西かいたう」・「道南」・「窪田」・「林崎」・「道の北」・「宮の西」・「大門崎」・「あらた」・「おこさの田」・「久保田」・「八反田」・「東畠」・「北原」・「河原坂下」・「道西」・「□堂」・「宮北」・「村ノ内」以上18個が記載されている。これらの地名を現存する小字名と比較しながら消滅してしまった地名の示す土地を以下に推定していく。

8月1日に「西かいたう」「西海道」から検地を開始している。北宮地村の検地時にも「西かいと」があり現在も「西海戸」という小字が存在することから、武田村のなかでも一番山側の地域を指すのであろう。そして、豎沢を渡るとそこには水上の集落がひろがる。また、「西海戸」については、西の街道であり、青暫方面から北宮地の「古山」に入り、白山城の山麓を通っていたという伝承の存在も指摘されている（影山1999）。このようなことから、この地に街道と呼ぶべき主要道路が存在していたことをうかがうことができるとともに、後述するが地割りに不自然な点があり単に街道を指すだけではないようである。

次に「道南」に移っているが、その次に「林崎」の検地を行っていることから、現在武田村の集落からのびる道（新道）の南側に存在したものであろう。現在は「林崎」吸收されてしまったものと考えらる。また、「窪田」もほぼ同じ範囲であろう。これらの地域は具体的に示し得ないが徳島堰造営によりその範囲や地名等が若干変化しているものと考えられる。検地は進み「林崎」を検地後に「道の北」の検地を行っている。

「道の北」は現「道北」であろう。このことから現在武田村の集落から西にのびる道は、少なくとも寛文4年には存在していたものであることが指摘できる。また、この道は徳島堰に平行しながら豎沢橋につながり、その関連性が強いことも注目しておきたい点である。

そこからは「宮の西」・「大門崎」・「あらた」の検地を行っている。「宮の西」の宮は諏訪神社を指すものと

第2図 武川筋武田村地名推定図（縮尺任意）



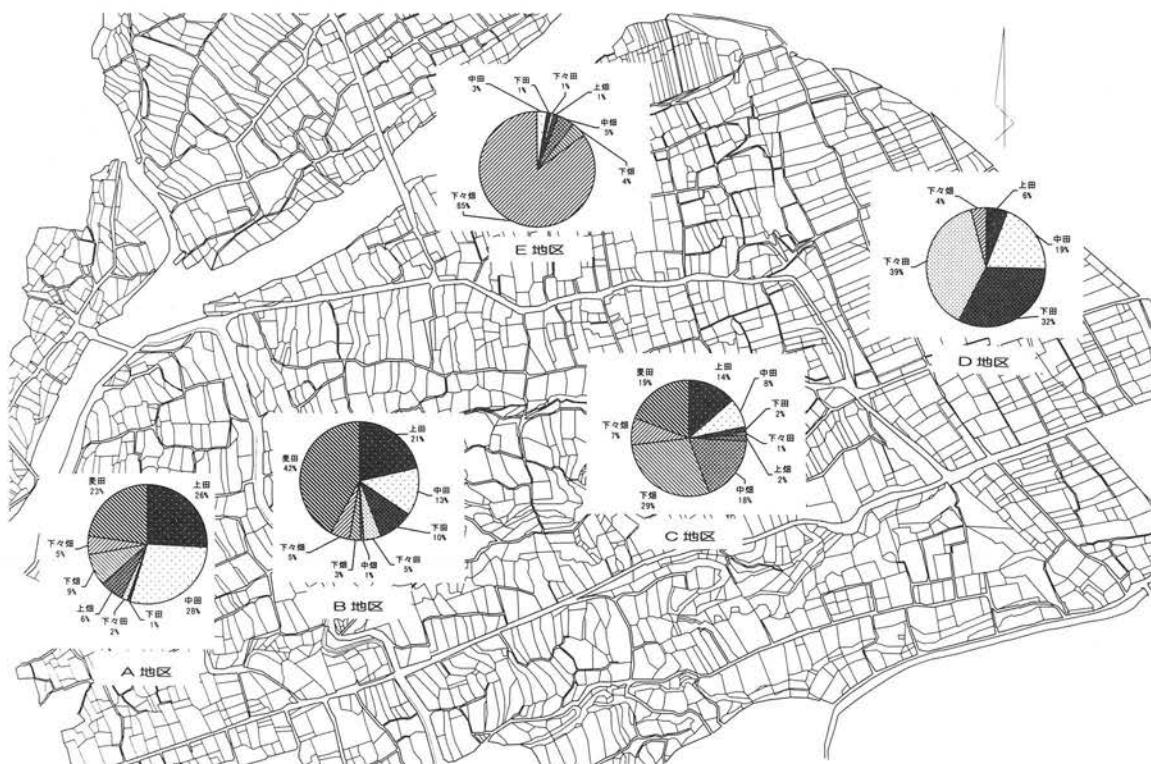
考えられることからその位置の推定は可能である。「あらた」は現「新田」であり、そのことを考慮すればおのずと「大門崎」の位置は、現「林崎」と現「新田」の間または、現「南反保」の西側周辺に位置することになる。しかし、その境界および詳細な地点は特定し得ない状況である。「おこさの田」「久保田」「八反田」は「あらた」と「東畠」の間であるか、現「南反保」の中央付近に位置しよう。なお、現「南反保」と同じ地名は寛文四年時の検地帳では、武田村ではなく北宮地村に属していたことが記されている。このことから現「南反保」付近の武田村と北宮地村との境界は現在とは異なるあり方を示していた可能性が高い。8月1日は「東畠」を最後に検地を終了している。

翌2日には「北原」から検地を開始している。現在北原は「上北原」と「下北原」に分かれる。そのいずれかに相当するものと考えられるが、「北原」の次に「河原坂下」の検地をおこなっていることから現「下北原」の範囲である可能性が高い。「河原坂下」はその名のとおり釜無川の低段丘部分であろう。その後、「道西」の検地を行っている。この地名であるが道の西を意味していることは字の通りであるが、どの道なのか推定できない状況である。ただし、地割りが多く、面積も広いことから現「坂下」が「河原坂下」と「道西」の2つに分かれていたものと考えられる。

その後、「□堂」・「宮北」・「北原」・「村ノ内」・「北原」といった順序で検地を行っている。「□堂」「宮北」の宮は泉勝院と考えられることからその北の地域を指すのであろう。「村ノ内」は武田に所在する集落の周辺を意味するのであろうが、後述のとおり武田村には集落のまとまりは2つある。検地の順序を考慮すれば、新規の集落周辺の可能性が高いであろう。

③地名毎の地目のあり方（第3図）

ここでは、寛文年間の地名推定地における地目のあり方を示し、当該地の農業生産力を知る一助としたい。ただし、推定地があくまでも推論の域を出ないことから、地形等を考慮しながら以下に示す5地域区分を仮定して示していくこととする。



第3図 武田村地目別グラフ

A地区：現「西海戸」に推定され、徳島堰よりも山側にあたる「西かいたう」「西海道」

B地区：現「林崎」「道北」に推定され、現在の旭バイパスよりも西側にあたる「道南」「窪田」「林崎」「道の北」「宮の西」「大門崎」

C地区：現「新田」「東畠」「南反保」に推定され、現在の主道よりも南側にあたる「おこさの田」「久保田」「八反田」「あらた」「東畠」

D地区：現「坂下」に推定され、釜無川右岸の川原にあたる「河原坂下」「道西」

E地区：現「上北原」「下北原」に推定され、「北原」「口堂」「宮北」「村ノ内」

以上に区分した結果が第3図である。なお、グラフ作成時には1反=990m²、1畝=99m²、1歩=9.9m²として面積を算出した。グラフから1、2点指摘しておく。徳島堰上のA地区で上田・中田の占める割合が54%とその他の地区と比較して極めて高く、より良質な土地であったということであろうか。E地域とした武田村の屋敷地中心地では畠が95%であり、土地の利用方法の違いを明確に読み取ることができる。

旧稿で示した鍋山、北宮地との違いを2点述べておく。まず、鍋山・北宮地では記載されていない「柵畠」「竹畠」が存在することである。これらはすべて地目としては下々畠とされ、その80%が屋敷地の中心地の一つである「村ノ内」の所在することである。また、畠の占める割合の高さは他地域では見られない状況である。このような状況は、徳島堰にせよそれ以前の用水（おそらくさらに上流の豊沢上橋付近）にせよ、この屋敷地群の裏手（北側）に用水を引くことは地理的に困難であったためであろうか。もう1点は、上田・上畠の割合は12%と低く、この点は鍋山に類似しているが、下々田・下々畠が鍋山・北宮地では見られないのに対し、合わせて30%と高い比率で存在していることである。

3. 武田村の屋敷地（第1表・第4図）

次に武田村の屋敷地について触れておく。慶長6年には13軒で屋敷地面積約3100m²、寛文4年には32軒で屋敷地面積約18000m²であることが検地水帖に記載されている。なお、反・畝・歩は前節と同じ単位で、坪は3.3m²として計算したものである。

第1表 慶長6年屋敷地面積

屋敷	坪	m ²
1	48	158.4
2	78	257.4
3	65	214.5
4	126	415.8
5	70	231
6	54	178.2
7	54	178.2
8	48	158.4
9	84	277.2
10	72	237.6
11	24	79.2
12	117	386.1
13	100	330

寛文4年屋敷地面積(1)

屋敷	反	畝	歩	m ²
1	0	2	20	264
2	0	3	0	297
3	0	5	11	531.3
4	0	7	6	712.8
5	0	6	6	613.8
6	1	2	24	1,267.2
7	0	4	1	399.3
8	0	4	15	445.5
9	0	3	22	369.6
10	0	5	18	554.4
11	1	0	12	1,029.6
12	0	5	2	501.6
13	0	8	0	792
14	0	5	10	528
15	0	4	23	471.9
16	0	3	1	300.3

寛文4年屋敷地面積(2)

屋敷	反	畝	歩	m ²
17	0	3	14	343.2
18	0	3	6	316.8
19	0	3	12	336.6
20	0	3	22	369.6
21	0	2	3	207.9
22	0	5	12	534.6
23	1	0	24	1,069.2
24	0	5	10	528
25	0	5	10	528
26	0	6	12	633.6
27	0	3	18	356.4
28	0	5	4	508.2
29	0	3	22	369.6
30	0	7	10	726
31	1	0	23	1,065.9
32	1	3	0	1,287

ここで気をつけておかなければならないのは、分筆により屋敷地の数が増えているのではなく、新たな土地を屋敷地としていることである。一つ一つの屋敷地の面積を比較してみればこのことは明らかである。慶長6年には屋敷地数は少なく、寛文4年に約2倍の32軒となり、面積自体は6倍近く増加しているのである。

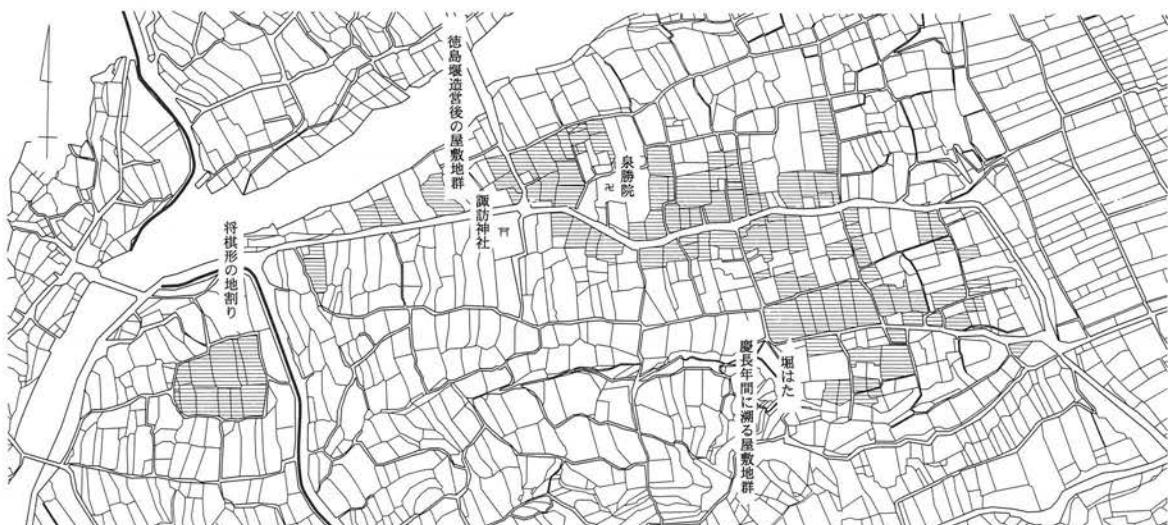
この増加が何に起因するかは即断はできないが、徳島堰造営による田畠の管理の変化、それに伴う人口増加や土地定着率の増加などが考えられようか。

では、屋敷地の増加に見られる武田村の集落変遷はどのようなものであったのだろうか。寛文年間の増加が慶長年間の集落を継続したとすれば、その核となったであろう集落はまとまりを持つものと考えられ、また街道を意識していたものと思われる。このような視点から現在の集落をみてみると、2つのまとまりを捉えることが可能である。

一つは字名の「道北」で示されている道（現在の主要道路）沿いに発達した屋敷地群、もう一つは「堀はた」と呼ばれる所を中心とした屋敷地群である。この2つの屋敷地群にはそのあり方に大きな違いが認められる。前者は主要道路を境に向き合う形で存在し、土地区画の形状も基本は短冊形とはいえ、その形状は多様である。それに対し、後者は道により長方形に区画された中に整然と短冊形に区画がされている。

次節でも述べるが、この2つの屋敷地群のあり方には時期差がある。前者の屋敷地群は徳島堰造営に関連して発達したものであり、その道（現在の主要道路）も旧来から存在していたものではなく、徳島堰造営に関連して作られたものといえる。それに対し、後者は徳島堰造営以前（少なくとも慶長年間以前）より存在していた可能性が非常に高い。

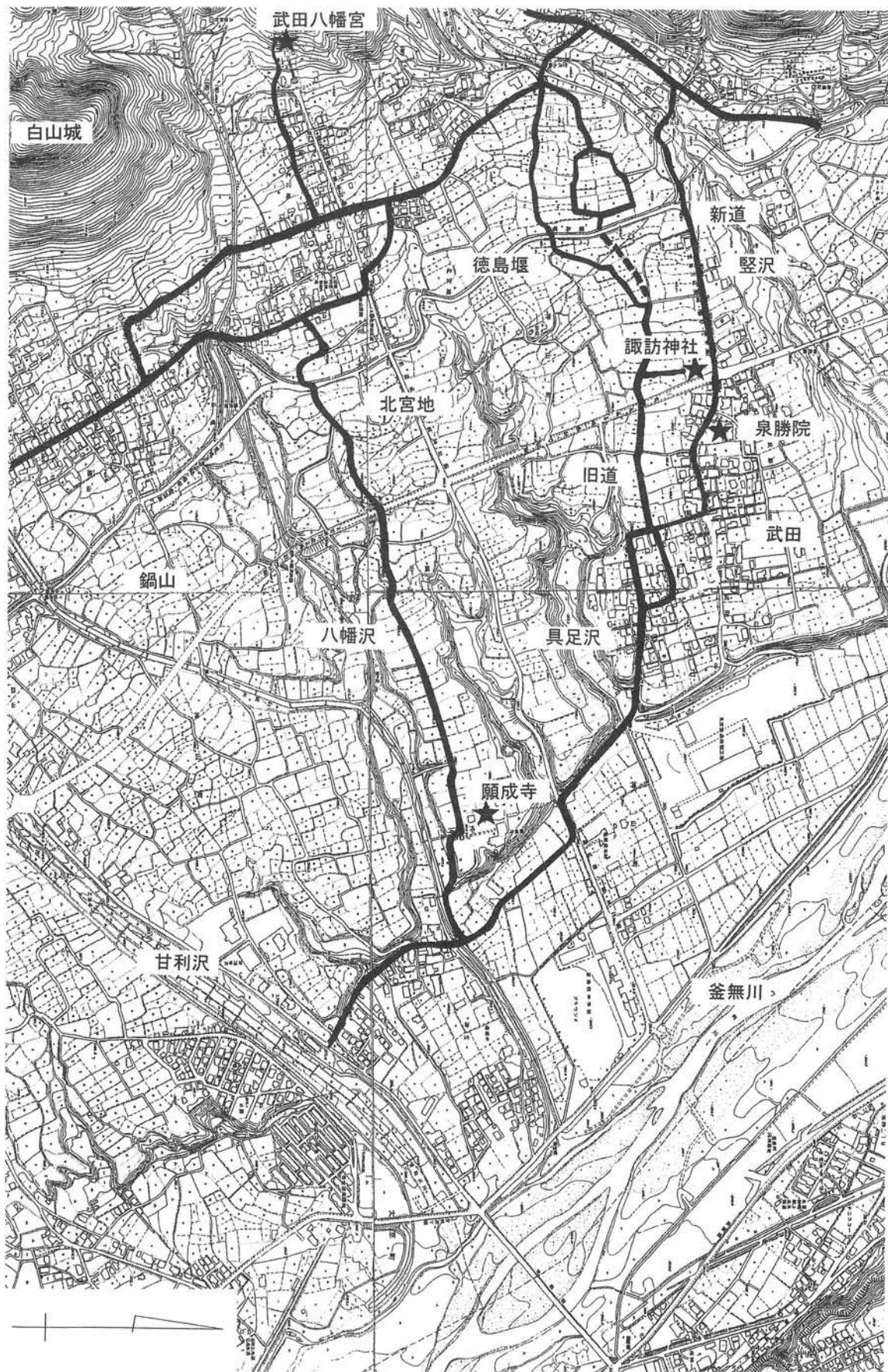
現在、屋敷地としては存在していないが、「西かいたう」に所在する地割りについて触れておきたい。水上から豊沢をわたり武田村の屋敷地群に下る道をたどると、途中で二股に分かれ将棋の駒形に土地を区画している。鍋山村、北宮地村及び武田村全体の地割りを見ても、このような区画はこの「西かいたう」のみである。2節で指摘したが、「西かいたう」は西の街道を指すのであろうが、この地割りによって考えなければならないのが「カイト集落」の可能性である。要するに西の集落（武田村の「堀はた」を中心とする屋敷地群及びその耕作地に対して西側）の可能性がないかということである。あくまでも推論の域を出るものではないが、用水及び道によるこの将棋の駒形の区画に何らかの意図が働いていたであろうことを指摘しておく。



第4図 武田村の屋敷地（縮尺任意）

4. 武田村及びその周辺の街道の推定（第5図）

旧稿で指摘した道の北方面への続きを示すことになる。また、前節で指摘しておいたように、武田村内の道については時期差を認めることができる。その点についても追って示していく。



第5図 武田村周辺の道（縮尺任意）

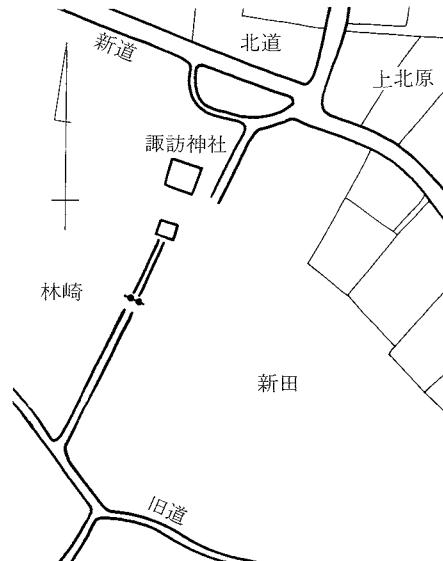
A 寛文年間以降の武田村主要道路（新道）

武田村の中心を東西に走る道は、釜無川の河原から河岸段丘上に入り、泉勝院、諏訪神社を通り、徳島堰の引き込み口で豊沢を挟んで対岸につながる。この道は、徳島堰を意識していることは、橋の位置と徳島堰が連動している点などから明らかである。そして、この道が整備されたことにより、通り沿いに屋敷地群が発達したのである。その結果として、「道北」などの字名が寛文4年の検地帖に登場したものと考えられる。またのことから、この道沿いの屋敷地群は徳島堰造営とともに発達し、それ以前には屋敷地群としては存在していなかったと考えられる。

B 慶長年間以前の武田村主要道路（旧道）

徳島堰造営よりも以前の道はいったいどこなのか。これを知る手がかりとしては、「堀はた」と呼ばれる地域を中心とした屋敷地群の存在から推定が可能である。

屋敷地群から西に向かう道が1本存在する。狭いもののまま道としては広いほうであろう。この道は現「林崎」の中で二手に分かれ、徳島堰沿いの道に現在は合流している。一方、豊沢上橋からは旧稿でA道としたものと武田村方向に延びる道が2本ある。このうち左（北）に向かう道は、現「西海戸」の中で将棋の駒形になりながらも武田村に向かっている。現在は、徳島堰によって寸断され、徳島堰より東側にどのようにつながっていたのかは判断できない状況であるが、おそらく「堀はた」の屋敷地群から西に向かう道とつながっていたものと考えられる。また、もう一つの道はそのまま東に下り、徳島堰を越えて前述の道同様に「堀はた」の屋敷地群に向かっている。なお、この道に沿って用水が流れているが、徳島堰に流れ込んでいるもののその反対側には用水の取り入れ口が存在し、明らかに徳島堰上の状況を意識していることをうかがうことができ、本道も徳島堰造営以前から存在した道であると考えられる。この二つの道が慶長年間に主要道路としての役割を果たし、徳島堰造営に伴って寸断され、現在の主要道路とその役割を交代したのである。さらに、この道と諏訪神社との関係を付け加えておく。この神社の拝殿は南側を向くとともに鳥居も南に存在している（第6図）。このことからも、この神社が現在の主要道路よりも旧道を明らかに意識されていることがわかる。また、旧道と神社を結ぶ地割りはその周辺と比較して幅の狭いものとなっていることも道の存在を示唆しているものといえる。



第6図 諏訪神社と道（縮尺任意）

5. まとめと展望

以上の検討から指摘できる点を二、三取り上げて、まとめとしておきたい。

本稿および旧稿の検討から北宮地と武田の境界にあたる現「南反保」「東畑」「新田」には、集落に関連するたとえば「地蔵屋敷」「家の前」「北屋敷」「大門はた」などの地名が数多く存在する。この限られた地域の地名の量は、「鍋山」・「北宮地」・「武田」全体を見渡しても極めて多いことを指摘できる。この地名の量の豊富さは単にその量的なものにとどまらない。この地域には、今回の検討で明らかにしたように、少なくとも慶長年間まで遡ることのできる屋敷地群が存在し、さらに現在の主要道路とは異なる当時の主要道路のあり方を指摘し得た。地名と地割りの詳細な関係はもはやつかむことはできないが、中世により近い集落のあり

方をいまだに残す地域といえよう。

今回の調査により、山梨県内において地名・地割りが寛文年間にまで遡り得るもののが存在することが明らかになった。さらに、制限はあるものの、中世の状況をより濃く反映していると考えられる慶長年間にまで遡る地名・地割りなどが存在し、その把握から慶長年間における集落や道などの推定が可能であることを確認した。

地名・地割りの研究で問題の一つとなる年代の点においては、例えば「道北」は寛文年間からの地名であることを示した。そして、その発生には徳島堰という当時の大規模開発が絡んでいることを指摘した。

また地割りについても、その起源が寛文年間と慶長年間に区分可能なものがあることを指摘した。このように年代という問題については、全てではないが解決可能な状況が現在残っていることを確認した。

地名・地割りはそれ自体に年代を持たず、今回の検討も中世と近世さらには現代のものが同時に扱われている可能性があり、特定の時代の状況を示したとは言いたい。しかし、近年の研究を見る限りあながち地名が何の意味も持たないということはなきそうである。現在、各地で圃場整備をはじめとする大規模な土地改変や大型幹線道路の新設などにより地割りや地形の変化が起きている。さらにはその影響で地名の移動・変更・融合などが発生する可能性も高いであろう。確かに、地名・地割り研究には限界はあろうが、現段階での把握・検討は必要不可欠なことであろう。

前稿と同様今回も、用水についての検討を加えることができなかった。集落のバックボーンの一つとなる用水は極めて重要である。現に、武川筋では徳島堰といった堰造営が、寛文10年に成されている。そして、その造営により集落・地名・地割りが移動・変更している可能性も高い。また、武田村には慶長6年段階には屋敷は少なく、小規模集落の存在をうかがわせる結果となった。しかし地名では、武田村と北宮地村の境界付近には屋敷に関連する地名が数多く検地帳に記載されている。このような地名がなぜこの地に存在するのか、検地帳にも記載されていない伝承として存在する「御旗部屋」などはどのような背景のもとでいつ頃から発生し『甲斐國志』に登場したのかなども考えつつ、中世・近世の白山城下の景観について迫っていきたい。

以上のように、圃場整備など大規模な土地改変前の地割りや現存する地名は細かな時代の把握は困難であることは否めないが、地域の歴史を考えていくうえでは今なお重要であると考えられる。今後も、このような視点に立ちつつ、地域の歴史を探る一助としたい。

最後に本稿を草するにあたり、以下の方々から貴重なご助言を得ました。記して感謝する次第であります。
秋山圭子・阿部由美子・伊藤正彦・岩下雅美・上野理江・小野初美・数野雅彦・小坂隆司・高須秀樹・高田賢治・内藤かおり・深沢真知子・降矢哲男・山下孝司（敬称略）

追　補

脱稿後、検討を加えたところ、中世に遡るとした旧道の一部が新田遺跡として調査がされていたことを知った（伊藤正彦『新田遺跡』韮崎市教育委員会1996）。調査では、旧道とした道に並行して溝（覆土の堆積状況から流路（用水路）と考えられる）が確認され、13から14世紀の所産と考えらる青磁片が出土したことを指摘しておきたい。

註

- (1)地名から中・近世の景観について迫ろうとする研究はすでに行われてきている。その成果についていちいち述べることは避ける。地名・地割り自体には年代が伴わないということからその研究方法を疑問視する声もあるかと思うが、明らかに近世さらには中世にまで遡る地名・地割りが存在することは疑いようのない事実であり、一定の研究成果を挙げているものと私は考えている。
- (2)以下、旧稿は「歴史環境－白山城下の景観（寛文四年の検地帖の検討から）」『白山城の総合研究』垂崎市教育委員会・白山城跡学術調査研究会を指すものとする。
- (3)旧稿の鍋山村・北宮地村の検討時と同様に、武田村の寛文年間以前の検地帳としては慶長年間のものが存在する。しかし、地名が載っておらず地名検討の対象とすることができないことを付け加えておく。
- (4)旧稿において武田村と北宮地村の境界は地形によらないと指摘したが、今回の検討の結果、地形的な制約によるものと確認できたことから旧稿での指摘をここで取り消しておきたい。ただ、地形的な境界とはいえ北宮地村と鍋山村にみられる地形制約と比較してその制約は緩やかであり、甘利沢と豊沢という狭い地域の中で、なぜ鍋山・北宮地・武田という3村に境界を分ける必要があったのかの説明はできたとはいえない。

主要参考文献

- 赤羽 篤 1997 「田切地域についての歴史的考察－長野県上伊那地方天竜川右岸の場合－」『信濃』49-3
- 伊藤正彦 1999 「白山城周辺の屋敷群」『白山城の総合研究』垂崎市教育委員会・白山城跡学術調査研究会
- 閔間俊明・秋山圭子 1999 「歴史環境－白山城下の景観（寛文四年の検地帖の検討から）」『白山城の総合研究』垂崎市教育委員会・白山城跡学術調査研究会
- 影山正美 1999 「武川衆の社会構成」『白山城の総合研究』垂崎市教育委員会・白山城跡学術調査研究会
- 渋谷敏己 1985 「中世村落の復元による地域史研究の試み－山形県置賜地方における二つの事例研究を中心に－」『歴史研究』289
- 千葉徳爾 1971 「三河地方の小地名カイトについて」『愛知大学総合郷土研究所紀要』16（『新・地名の研究』1983 古今書院所収）
- 垂崎市教育委員会・白山城跡学術調査研究会 1999 『白山城の総合研究』
- 垂崎市立神山公民館 1993 『ふるさと読本「かみやま」』
- 三浦孝美 1997 「地名による中世村落景観復元の試み－上伊那郡辰野町沢底・赤羽地区－」『信濃』49-3
- 柳田國男 1936 『地名の研究』古今書院
- 矢野恒雄 1995 「上水内郡牟礼村小玉の村落史－近世の景観を中心として－」『信濃』47-2
『甲州武川筋武田村御検地水帳』1～3 山梨県立図書館蔵
- その他多くの論文等を参考にしたが紙面の都合上割愛させていただいた。

第2表 武田村検地帳(1)

検地日	小字名	地目	反	畝	歩
8月1日	西かいたう	中田	0	8	26
8月1日	西かいたう	下々畑	0	1	0
8月1日	西かいたう	下々畑	0	2	0
8月1日	西かいたう	上田	0	9	0
8月1日	西かいたう	上田	1	8	24
8月1日	西かいたう	中田	0	1	8
8月1日	西かいたう	中畑	0	2	24
8月1日	西かいたう	中畑	0	1	10
8月1日	西かいたう	下畑	0	2	0
8月1日	西かいたう	上田	0	3	12
8月1日	西かいたう	下々田	0	1	18
8月1日	西かいたう	下田	0	1	6
8月1日	西かいたう	下下田	0	1	0
8月1日	西かいたう	下畑	0	0	20
8月1日	西かいたう	下下田	0	0	20
8月1日	西かいたう	下々畑	0	3	20
8月1日	西海道	下畑	0	4	0
8月1日	西海道	下畑	0	3	20
8月1日	西海道	下々畑	0	3	13
8月1日	西海道	中田	0	6	20
8月1日	西海道	下田	0	1	3
8月1日	西海道	下畑	0	1	25
8月1日	西海道	下畠	0	3	9
8月1日	西海道	上田	0	1	13
8月1日	西海道	上田	1	2	18
8月1日	西海道	上田	0	3	14
8月1日	西海道	中畑	0	2	27
8月1日	西海道	中田	0	4	28
8月1日	西海道	下畠	0	0	8
8月1日	西海道	下畑	0	0	4
8月1日	西海道	下々畠	0	0	6
8月1日	西海道	下畑	0	6	6
8月1日	西海道	中畑	0	1	24
8月1日	西海道	中田	0	0	12
8月1日	西海道	下畑	0	0	6
8月1日	西海道	下々畠	0	0	18
8月1日	西海道	下畑	0	1	15
8月1日	西海道	下畑	0	2	0
8月1日	西海道	中田	0	5	26
8月1日	西海道	中田	0	5	23
8月1日	西海道	中田	0	6	10
8月1日	西海道	上田	0	4	11
8月1日	西海道	中田	1	5	14
8月1日	西海道	麦田	1	3	18
8月1日	西海道	麦田	0	7	2
8月1日	西海道	上田	0	8	8
8月1日	西海道	中田	0	3	2
8月1日	西海道	上田	0	6	0
8月1日	西海道	麦田	1	3	22
8月1日	西海道	中田	1	4	13
8月1日	西海道	中畑	0	7	7
8月1日	西海道	麦田	1	3	25
8月1日	西海道	上田	1	5	20
8月1日	西海道	中田	1	3	26
8月1日	西海道	麦田	1	2	14
8月1日	西海道	麦田	1	1	27
8月1日	道南	麦田	0	6	22
8月1日	道南	麦田	0	3	6
8月1日	道南	麦田	0	4	24
8月1日	道南	中田	0	0	18
8月1日	道南	麦田	0	4	6
8月1日	道南	麦田	0	6	12
8月1日	道南	麦田	1	6	4

検地日	小字名	地目	反	畝	歩
8月1日	道南	麦田	0	5	24
8月1日	窪田	上田	1	5	18
8月1日	窪田	中田	0	7	24
8月1日	林崎	上田	0	7	5
8月1日	林崎	下々田	0	1	5
8月1日	林崎	下々田	0	0	14
8月1日	林崎	下田	0	2	2
8月1日	林崎	下田	0	3	10
8月1日	林崎	中田	1	0	12
8月1日	林崎	中田	1	2	0
8月1日	林崎	麦田	0	7	21
8月1日	林崎	麦田	0	6	20
8月1日	林崎	上田	0	0	28
8月1日	林崎	上田	0	7	14
8月1日	林崎	上田	0	5	15
8月1日	林崎	麦田	1	2	25
8月1日	林崎	麦田	1	1	7
8月1日	林崎	麦田	1	1	7
8月1日	林崎	麦田	1	1	15
8月1日	林崎	麦田	1	2	0
8月1日	林崎	麦田	1	9	19
8月1日	林崎	麦田	0	9	18
8月1日	道の北	下田	1	0	23
8月1日	道の北	中畑	0	4	3
8月1日	道の北	中田	0	7	23
8月1日	道の北	中田	0	6	26
8月1日	道の北	下田	0	9	10
8月1日	道の北	下々畑	0	2	3
8月1日	道の北	下々畑	0	0	12
8月1日	道の北	下々畑	0	1	5
8月1日	道の北	下々畑	0	0	15
8月1日	道の北	下々畑	0	0	28
8月1日	道の北	下々田	0	5	26
8月1日	道の北	中田	0	6	26
8月1日	道の北	下田	0	9	10
8月1日	道の北	下々畑	0	2	3
8月1日	道の北	下々畑	0	0	12
8月1日	道の北	下々畑	0	1	5
8月1日	道の北	下々畑	0	0	15
8月1日	道の北	下々畑	0	0	28
8月1日	道の北	下々田	0	5	26
8月1日	道の北	中田	0	6	26
8月1日	道の北	下田	0	9	10
8月1日	道の北	下々畑	0	2	3
8月1日	道の北	下々畑	0	0	12
8月1日	道の北	下々畑	0	1	5
8月1日	道の北	下々畑	0	0	15
8月1日	道の北	下々畑	0	0	28
8月1日	道の北	下々田	0	5	26
8月1日	道の北	下々畑	0	0	28
8月1日	道の北	下田	0	5	27
8月1日	宮の西	麦田	0	7	11
8月1日	宮の西	麦田	0	0	14
8月1日	宮の西	麦田	1	0	27
8月1日	宮の西	上田	1	0	15
8月1日	宮の西	上田	1	1	16
8月1日	宮の西	麦田	0	6	12
8月1日	大門崎	麦田	0	5	20
8月1日	大門崎	上田	0	7	0
8月1日	大門崎	上田	0	5	10
8月1日	大門崎	下田	0	3	6
8月1日	大門崎	麦田	0	8	0
8月1日	大門崎	上田	0	1	15
8月1日	大門崎	上田	0	7	6
8月1日	大門崎	麦田	1	0	4
8月1日	大門崎	麦田	1	2	27
8月1日	大門崎	上田	1	3	23
8月1日	大門崎	麦田	1	0	18
8月1日	大門崎	麦田	0	9	29
8月1日	大門崎	麦田	0	8	20
8月1日	大門崎	麦田	0	6	7

検地日	小字名	地目	反	畝	歩
8月1日	大門崎	麦田	0	5	14
8月1日	大門崎	麦田	0	9	29
8月1日	大門崎	中田	0	9	15
8月1日	大門崎	中田	0	5	25
8月1日	大門崎	上田	0	2	0
8月1日	大門崎	下々畑	0	2	20
8月1日	大門崎	下田	0	2	23
8月1日	大門崎	麦田	0	8	12
8月1日	大門崎	麦田	0	6	23
8月1日	大門崎	麦田	0	7	6
8月1日	大門崎	下畑	0	7	6
8月1日	大門崎	上田	0	4	0
8月1日	大門崎	麦田	0	8	20
8月1日	大門崎	下畑	0	7	6
8月1日	あらた	中畑	0	8	6
8月1日	あらた	中畑	1	0	20
8月1日	あらた	下畑	0	2	11
8月1日	あらた	下畑	0	0	10
8月1日	あらた	下畑	0	6	20
8月1日	あらた	下畑	0	6	6
8月1日	あらた	下畑	0	3	9
8月1日	あらた	下畑	0	2	2
8月1日	あらた	下畑	0	4	22
8月1日	あらた	下畑	0	2	4
8月1日	あらた	上畑	0	3	10
8月1日	あらた	上畑	0	2	6
8月1日	あらた	下畷	0	2	0
8月1日	あらた	下畷	0	7	14
8月1日	あらた	下畷	0	2	12
8月1日	あらた	中畑	0	2	7
8月1日	あらた	中畑	0	2	3
8月1日	あらた	中畑	0	4	0
8月1日	あらた	中畑	0	7	4
8月1日	あらた	中畑	0	7	10
8月1日	あらた	中畑	0	3	10
8月1日	あらた	中畑	0	2	28
8月1日	あらた	下畑	0	2	6
8月1日	あらた	中畑	0	3	0
8月1日	あらた	上畑	0	4	12
8月1日	あらた	上畑	0	1	2
8月1日	あらた	上畑	0	3	6
8月1日	あらた	中田	0	4	8
8月1日	あらた	中田	1	0	19
8月1日	あらた	中田	0	5	10
8月1日	あらた	下畑	0	2	10
8月1日	あらた	下畷	0	1	2
8月1日	あらた	中田	0	4	8
8月1日	あらた	中田	1	0	19
8月1日	あらた	下畷	0	2	10
8月1日	あらた	下畷	0	1	2
8月1日	あらた	中田	0	5	14
8月1日	あらた	中田	0	2	22
8月1日	あらた	上田	0	3	12
8月1日	あらた	下畑	0	1	1
8月1日	あらた	中畑	0	4	8
8月1日	あらた	下畷	0	0	12
8月1日	あらた	下畷	0	1	3
8月1日	あらた	中田	0	5	14
8月1日	あらた	中田	0	2	22
8月1日	あらた	上田	0	3	12
8月1日	あらた	下畑	0	1	1
8月1日	あらた	中畑	0	4	7
8月1日	あらた	下畷	0	3	27
8月1日	あらた	麦田	1	3	12
8月1日	あらた	麦田	0	7	21
8月1日	あらた	麦田	0	2	7
8月1日	あらた	麦田	0	4	1
8月1日	あらた	麦田	1	1	13
8月1日	あらた	麦田	1	0	0
8月1日	あらた	麦田	1	0	8
8月1日	あらた	上田	1	0	8

第3表 武田村検地帳(2)

検地日	小字名	地目	反	畝	歩
8月1日	あらた	上田	0	4	27
8月1日	あらた	上田	1	0	17
8月1日	あらた	上田	0	4	10
8月1日	あらた	上田	1	1	5
8月1日	あらた	中畠	0	4	12
8月1日	あらた	中畠	0	5	18
8月1日	あらた	下畠	0	1	7
8月1日	あらた	下々畠	0	3	0
8月1日	あらた	下々畠	0	1	10
8月1日	あらた	下々畠	0	1	2
8月1日	あらた	中畠	0	3	22
8月1日	あらた	下畠	0	1	12
8月1日	あらた	下々畠	0	1	22
8月1日	あらた	下々田	0	2	10
8月1日	あらた	下々田	0	1	2
8月1日	おこさの田	中田	0	2	14
8月1日	おこさの田	上田	0	7	14
8月1日	おこさの田	中田	1	1	22
8月1日	おこさの田	麦田	1	1	0
8月1日	おこさの田	麦田	1	2	0
8月1日	久保田	麦田	1	1	11
8月1日	久保田	上田	1	3	21
8月1日	久保田	上田	1	1	26
8月1日	久保田	下畠	0	7	7
8月1日	久保田	下田	0	4	20
8月1日	久保田	下田	0	4	17
8月1日	久保田	下田	0	2	0
8月1日	久保田	下畠	0	1	20
8月1日	久保田	下畠	0	1	20
8月1日	久保田	下畠	0	3	6
8月1日	久保田	中田	0	8	0
8月1日	久保田	中田	0	8	0
8月1日	久保田	麦田	0	5	10
8月1日	久保田	中畠	0	4	5
8月1日	久保田	麦田	0	6	28
8月1日	久保田	中田	0	3	29
8月1日	久保田	上田	0	7	11
8月1日	久保田	上田	1	0	4
8月1日	久保田	麦田	1	5	23
8月1日	八反田	麦田	0	9	1
8月1日	八反田	麦田	1	2	10
8月1日	八反田	麦田	0	3	0
8月1日	八反田	麦田	0	3	29
8月1日	八反田	麦田	1	1	21
8月1日	八反田	上田	0	7	21
8月1日	東畠	下畠	0	6	2
8月1日	東畠	下畠	0	3	1
8月1日	東畠	下畠	1	0	23
8月1日	東畠	中畠	0	6	15
8月1日	東畠	中畠	0	3	27
8月1日	東畠	中畠	0	6	12
8月1日	東畠	下畠	0	5	21
8月1日	東畠	中畠	0	4	24
8月1日	東畠	下畠	0	2	24
8月1日	東畠	中畠	0	4	9
8月1日	東畠	中畠	0	4	18
8月1日	東畠	下畠	0	7	22
8月1日	東畠	下畠	0	3	19
8月1日	東畠	下畠	0	3	6
8月1日	東畠	下畠	0	4	6
8月1日	東畠	下畠	0	7	29
8月1日	東畠	下畠	0	4	28
8月1日	東畠	下畠	0	1	25

検地日	小字名	地目	反	畝	歩
8月1日	東畠	下畠	1	1	27
8月1日	東畠	下畠	0	6	12
8月1日	東畠	下畠	0	2	24
8月1日	東畠	中畠	0	4	13
8月1日	東畠	下畠	0	7	14
8月1日	東畠	中畠	0	5	18
8月1日	東畠	中畠	0	5	0
8月1日	東畠	下々畠	0	3	6
8月1日	東畠	下畠	0	3	18
8月1日	東畠	中畠	0	5	20
8月1日	東畠	中畠	0	3	18
8月1日	東畠	下々畠	0	6	25
8月1日	東畠	下畠	0	3	20
8月1日	東畠	下々畠	0	7	14
8月1日	東畠	中畠	0	4	6
8月1日	東畠	下畠	0	9	9
8月1日	東畠	下畠	1	1	20
8月1日	東畠	下々畠	0	5	6
8月1日	東畠	下々畠	0	1	15
8月1日	東畠	下々畠	0	7	3
8月1日	東畠	下畠	1	2	16
8月1日	東畠	下畠	0	4	19
8月1日	東畠	下々畠	0	4	3
8月1日	東畠	下々畠	0	2	24
8月2日	北原	下々畠	0	9	16
8月2日	北原	下々畠	0	5	18
8月2日	北原	下々畠	1	7	0
8月2日	北原	下々畠	0	5	22
8月2日	北原	下々畠	0	2	12
8月2日	北原	下々畠	0	6	12
8月2日	北原	下々畠	2	3	0
8月2日	北原	下々畠	2	1	10
8月2日	北原	下々畠	0	3	14
8月2日	北原	下々畠	0	3	15
8月2日	北原	下々畠	0	7	15
8月2日	北原	下々畠	0	0	26
8月2日	北原	下々畠	1	0	22
8月2日	北原	下々畠	0	4	15
8月2日	北原	下々畠	0	3	17
8月2日	北原	下々畠	0	1	22
8月2日	北原	下々畠	0	6	8
8月2日	北原	下々畠	0	0	20
8月2日	北原	下々畠	0	1	17
8月2日	北原	下々畠	0	1	10
8月2日	北原	下々畠	0	3	6
8月2日	北原	下々畠	0	1	12
8月2日	北原	下々畠	0	5	15
8月2日	北原	下々畠	0	4	15
8月2日	北原	下々畠	0	5	0
8月2日	北原	下々畠	0	2	22
8月2日	北原	下々畠	0	2	16
8月2日	北原	下々畠	0	1	11
8月2日	北原	下々畠	0	4	8
8月2日	北原	下々畠	0	2	0
8月2日	北原	下々畠	0	6	14
8月2日	北原	下々畠	0	1	14
8月2日	北原	下々畠	0	4	2
8月2日	北原	下々畠	0	4	5
8月2日	北原	下々畠	0	5	4
8月2日	北原	下々畠	0	3	1
8月2日	北原	下々畠	0	3	6
8月2日	北原	下々畠	0	5	18
8月2日	北原	下々畠	2	0	24

検地日	小字名	地目	反	畝	歩
8月2日	北原	下々畠	1	6	1
8月2日	北原	下々畠	0	8	24
8月2日	北原	下々畠	0	2	1
8月2日	北原	下々畠	0	1	15
8月2日	北原	下々畠	0	2	7
8月2日	河原坂下	下田	0	1	15
8月2日	河原坂下	下々畠	0	0	24
8月2日	河原坂下	下田	0	3	10
8月2日	河原坂下	下田	0	2	15
8月2日	河原坂下	下田	0	4	5
8月2日	河原坂下	中田	0	0	24
8月2日	河原坂下	下田	0	0	12
8月2日	河原坂下	中田	0	3	6
8月2日	河原坂下	中田	1	0	22
8月2日	河原坂下	下々畠	0	0	8
8月2日	河原坂下	上田	0	5	10
8月2日	河原坂下	上田	0	3	2
8月2日	河原坂下	上田	0	1	9
8月2日	河原坂下	中田	0	0	20
8月2日	河原坂下	下田	0	0	24
8月2日	河原坂下	下田	0	1	10
8月2日	河原坂下	下田	0	1	15
8月2日	河原坂下	上田	0	0	8
8月2日	河原坂下	上田	0	9	2
8月2日	河原坂下	上田	0	7	0
8月2日	河原坂下	上田	0	8	5
8月2日	河原坂下	中田	0	1	6
8月2日	河原坂下	中田	0	1	18
8月2日	河原坂下	下田	0	1	24
8月2日	河原坂下	下田	0	1	27
8月2日	河原坂下	中田	1	3	5
8月2日	河原坂下	中田	0	1	0
8月2日	河原坂下	下々田	0	0	7
8月2日	河原坂下	下々田	0	0	8
8月2日	河原坂下	下田	0	0	4
8月2日	河原坂下	下田	0	0	14
8月2日	河原坂下	中田	0	1	28
8月2日	河原坂下	中田	0	0	24
8月2日	河原坂下	中田	1	5	1
8月2日	河原坂下	中田	0	4	27
8月2日	河原坂下	中田	0	6	4
8月2日	河原坂下	下田	0	3	24
8月2日	河原坂下	下田	0	1	10
8月2日	河原坂下	下田	1	6	4
8月2日	河原坂下	中田	0	4	23
8月2日	河原坂下	中田	0	9	0
8月2日	河原坂下	中田	0	3	29
8月2日	河原坂下	中田	0	4	9
8月2日	河原坂下	中田	1	7	18
8月2日	河原坂下	中田	0	4	24
8月2日	河原坂下	下田	0	0	18
8月2日	河原坂下	中田	0	1	0
8月2日	河原坂下	中田	0	3	6
8月2日	河原坂下	上田	0	6	20
8月2日	河原坂下	中田	0	6	6
8月2日	河原坂下	中田	0	1	18
8月2日	河原坂下	中田	0	2	28
8月2日	河原坂下	中田	0	0	27
8月2日	河原坂下	下田	0	1	18
8月2日	河原坂下	中田	0	2	7
8月2日	河原坂下	中田	0	4	6
8月2日	河原坂下	上田	0	3	27
8月2日	河原坂下	中田	0	0	26

第4表 武田村検地帳(3)

検地日	小字名	地目	反	畝	歩
8月2日	河原坂下	下田	0	3	
8月2日	河原坂下	下田	0	3	20
8月2日	川原坂下	下田	0	0	27
8月2日	川原坂下	下田	0	2	24
8月2日	川原坂下	下々田	0	1	22
8月2日	川原坂下	下々田	0	0	26
8月2日	川原坂下	下田	0	2	2
8月2日	川原坂下	下々田	0	1	12
8月2日	川原坂下	下田	0	1	8
8月2日	川原坂下	下田	0	1	0
8月2日	川原坂下	下田	0	3	20
8月2日	川原坂下	下田	0	1	19
8月2日	道西	下田	0	4	22
8月2日	道西	下々田	0	7	28
8月2日	道西	下々田	0	7	11
8月2日	道西	下々田	0	0	18
8月2日	道西	下々田	0	2	6
8月2日	道西	下々田	0	1	19
8月2日	道西	下々田	0	2	3
8月2日	道西	下々田	0	1	20
8月2日	道西	下々田	0	0	8
8月2日	道西	下々田	0	1	2
8月2日	道西	下々田	0	0	29
8月2日	道西	下々田	0	1	24
8月2日	道西	下田	2	9	6
8月2日	道西	下々烟	0	2	4
8月2日	道西	下田	0	4	8
8月2日	道西	下田	0	0	4
8月2日	道西	下田	0	0	20
8月2日	道西	下々田	0	0	26
8月2日	道西	下々田	0	1	26
8月2日	道西	下々田	0	0	24
8月2日	道西	下田	0	1	5
8月2日	道西	下田	0	4	8
8月2日	道西	下田	0	3	0
8月2日	道西	下田	0	1	26
8月2日	道西	下々田	0	6	28
8月2日	道西	下々田	0	1	17
8月2日	道西	下々田	0	3	25
8月2日	道西	下々田	0	4	17
8月2日	道西	下々田	0	0	26
8月2日	道西	下々田	0	0	12
8月2日	道西	下々烟	0	1	4
8月2日	道西	下々田	0	1	27
8月2日	道西	下々烟	0	1	49
8月2日	道西	下々烟	0	2	20
8月2日	道西	下々烟	0	0	8
8月2日	道西	下々烟	0	0	24
8月2日	道西	下田	0	7	10
8月2日	道西	下々田	1	0	22
8月2日	道西	下々田	3	9	8
8月2日	道西	下々田	0	0	22
8月2日	道西	下々田	0	0	12
8月2日	道西	下々田	0	0	20
8月2日	道西	下田	0	2	5
8月2日	道西	下田	0	5	18
8月2日	道西	下田	0	1	12
8月2日	道西	下田	0	1	18
8月2日	道西	下々田	0	3	22
8月2日	道西	下々田	0	0	8
8月2日	道西	下々田	0	0	15
8月2日	道西	下々田	0	0	28
8月2日	道西	下々田	0	1	18
8月2日	道西	下々田	0	0	10
8月2日	道西	下々烟	0	0	14
8月2日	道西	下田	0	3	8
8月2日	道西	中田	0	8	8
8月2日	道西	下々田	0	1	13
8月2日	道西	下々烟	0	0	10